

交通死亡事故多発

交通死亡事故8件10人（今年1月から5月末）

筑西市では、今年に入って交通死亡事故が8件発生し、10人の尊い命が失われています。昨年を大きく上回る状況に危機感を募らせた市と筑西警察署では交通死亡事故多発警報を発令し、事故防止に力を注いでいます。

止まらない交通死亡事故

1月26日の事故に始まった今年の交通死亡事故は、3月に入り1日、6日、8日、17日、25日と立て続けに発生、また5月に入ってからも2件の死亡事故が発生しました。交通死亡事故8件10人という死者数は、水戸市やつくば市を上回る茨城県内ワースト第1位という非常に残念な数字となっています（5月末現在・別表）。また、交通人身事故については、今年に入ってからすでに280件発生し、件数こそ昨年に比べて減少しているものの、今後も重大交通死亡事故の発生が懸念される状況が続いています。

交通事故を減らすために

こうした交通事故の被害者にならないために、また、加害者にならないために、私たちはどんなことに気をつけ、身を守ればいいのか。

■運転者として

運転中に事故を起こさないためには、車外の状態を十分に確認するこ



交通事故防止のために

「寅さん」が街頭キャンペーン

市では交通事故の撲滅に向けて、筑西警察署、交通安全協会、交通安全母の会などと協力し、街頭キャンペーンを行いました。

5月16日には、県立下館工業高校の生徒たちが幸町の交差点で、街頭キャンペーンを行い、元気いっぱい交通安全事故の防止を訴えていました。また、17日には、フーテンの寅さんそっくりの植木貞男さん（関本肥土）が筑西警察署前に登場。命の大切さや自動車のありがたさを寅さん節で書いた手作りのチラシをドライバーに配布しました。

寅さんに扮してドライバーに交通安全を呼びかける植木さん。



さわやかな笑顔でチラシを配る工業高校のみなさん。



筑西警察署 関 健二 署長

今年に入り、若い人たちが亡くなる事故が続いており、大変心を痛めております。交通事故は、ドライバーの安全意識の低さから起こるものです。交通ルールを守ることは当然ですが、ルールだけでは解決できないことに「ゆずりあい」や「思いやり」の気持ちでのぞむことが大切です。また、誰もが経験したことがある「ひやり！ハット！」体験をハンドルを握る心の手に刻むことが大切です。

また、筑西署では事故防止のため、高齢者の交通安全教室や街頭活動・指導にも力を入れています。

今後も、市民が安全で安心して暮らせるよう努力しますので、ご理解とご協力をお願いします。

交通死亡事故発生状況

(5月末現在)

市町村	死者数	順位	地域別	死者数	都道府県	死者数	順位
筑西市	10人	1位	県西	26人	大阪府	121人	1位
水戸市	8人	2位	県南	24人	愛知県	114人	2位
つくば市	8人	〃	県央	16人	東京都	112人	3位
取手市	5人	4位	鹿行	7人	千葉県	97人	4位
古河市	3人	5位	県北	4人	神奈川県	96人	5位
神栖市	3人	〃	高速道路	2人	茨城県	79人	9位

筑西署管内の人身交通事故発生状況

(5月末現在)

	発生件数	死者数	負傷者		
			重傷	軽傷	小計
今年	280件	10人	35人	323人	358人
昨年	317件	3人	36人	373人	409人
増減数	-37件	+7人	-1人	-50人	-51人

今年1月から5月までの交通死亡事故発生時の状況

死亡者

1月26日 正面衝突	甲) 男性 22 歳 (普通乗用車) 乙) 男性 50 歳 (普通乗用車)	3月17日 横断中	甲) 女性 47 歳 (軽貨物車) 乙) 女性 81 歳 (歩行)
3月1日 出会い頭	甲) 男性 24 歳 (普通貨物車) 乙) 男性 56 歳 (普通乗用車)	3月25日 出会い頭	甲) 男性 81 歳 (普通貨物車) 乙) 男性 56 歳 (普通乗用車)
3月6日 出会い頭	甲) 男性 18 歳 (原付) 乙) 男性 66 歳 (普通乗用車)	5月6日 電柱に衝突	甲) 男性 19 歳 (普通乗用車) 男性 18 歳、男性 18 歳 (共に後部座席)
3月8日 正面衝突	甲) 男性 18 歳 (普乗)、男性 18 歳 (同乗) 乙) 男性 35 歳 (大型貨物車)	5月30日 横断中	甲) 男性 57 歳 (ごみ収集車) 乙) 女性 74 歳 (自転車)

とが必要で、特に歩行者や対向車がこう動くだろうと勝手に思い込む「だるう運転」、車外の景色や車内での携帯電話での通話などが原因の「脇見」、1つの対象物だけに気を取られることによって起こる「発見の遅れ・不発見」には十分注意が必要です。

■歩行者として
歩行中の事故から身を守るには、安全確認を徹底することが大切です。特に道路を横断する場合には信号が青になっても、もう一度左右を確認してから歩き出す余裕をもちましょう。

また、夜間には自動車などから見つけられやすいよう明るい色の服装をしたり、持ち物に反射材をつけたりすると効果的です。これは自転車などで走行する場合にも有効です。

交通事故を減らすために大切なのは一人ひとりの心がけです。悲惨な交通事故を繰り返さないために、交通ルールを守りましょう。



自転車を押しながら、下校時の児童を見守る「小栗子供を守る会」のみなさん。

「ばっちゃんボランティア」が大活躍

小栗小学校の児童の下校を見守るのは、「ばっちゃんボランティア」こと「小栗子供を守る会(稲つき会長・会員24人)のみなさん。月曜日から金曜日までの毎日、自転車を押しながら最後の一人まで送り届けています。「帰りは自転車があるから、遠く離れた山の中だつて平気なんですよ。運動にもなりますしね」と明るく話すメンバーのみなさん。もともとは食事サービスのメンバーが有志ではじめたもので、活動は今年で4年目。「子どもたちとのふれあいがあると、楽しい。私たちの活動によって、事件や事故がなくなれば」。軽やかな足取りで、今日も児童たちを見守ります。